

2026

阪神・淡路大震災 31年

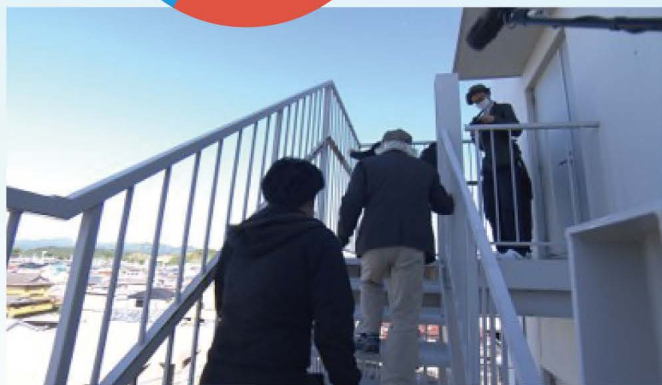
守りたい、 だから伝える



関西 民放NHK連携プロジェクト

2/23
月・祝

シンポジウム & 上映会



串本町の津波避難訓練に各局の記者、アナウンサーが参加



串本町のみなさんとのワークショップで発表する記者

<日程> 2026年2月23日(月・祝)

10:30 開 場

11:00 上映会

『テレビが伝えた震災 31年 若手からのメッセージ』

< 休 憩 >

14:00 シンポジウム

『南海トラフ巨大地震 守りたい、だから 伝える』

第1部 メディア・住民・町で目指す“串本モデル”

第2部 みんなで語ろう“あきらめない避難”

<会場> (会場参加のみ、オンラインはありません。)

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

東館1F こころのシアター

<参加費> 無 料

<定 員> 約 80 名

<参加方法>

フォームからお申し込みください。

先着順

締め切り 2月20日(金) 17:00

<https://forms.gle/Zub8v5wdoEG243XG8>

定員に至り次第受付を終了。空きがあれば当日参加できます。



<https://hitobou.com/event/kansai-renkei/>

主 催：関西 民放NHK連携プロジェクト
共 催：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

助 成：公益財団法人 放送文化基金
ひょうご安全の日推進会議

震災の教訓を
ともに未来に繋ぐ



ひょうご安全の日推進事業

阪神・淡路大震災 30 年を機にスタートした「関西 NHK 民放連携プロジェクト」。関西の民放 6 社と NHK が局の垣根を超え、震災の経験を未来につなぎ、一人でも多くの命を守る災害報道を目指す取り組みです。中心となるのは若手の記者、ディレクター、アナウンサーたち。みんなで決めた合言葉が「守りたい、だから伝える」です。



去年 11 月 津波避難訓練を取材する各局

南海トラフ巨大地震 串本モデルへの挑戦

2 年目を迎えた連携プロジェクトのテーマは「南海トラフ巨大地震」です。最速 2 分、最大 18 メートルの津波が想定される和歌山串本町。町の避難訓練に記者、アナウンサーが参加。住民とともに避難し、難しさを実感。「避難をあきらめる人」がいる現実も知りました。「メディアが取材して伝えるだけでなく、地域に入り込み共に課題を解決する」という新たな挑戦。目指すのは命を守り切るために総力をあげて取り組む「串本モデル」の実現です。



去年 12 月 メディアと串本のみなさんとのワークショップ

阪神・淡路大震災から 31 年、
私たちメディアに何ができるのか。
住民、自治体とともに考えます。

なお本シンポジウムの模様は 3 月に
NHK で放送の予定です。
ぜひご参加ください。

お問い合わせ

内容について：
関西民放 NHK 連携プロジェクト
kansai.renkei@gmail.com

会場へのアクセス等について：
人と防災未来センターの公式サイトにて
ご確認ください。
<https://www.dri.ne.jp/>

上映会

11:00 ~ 12:45

『テレビが伝えた震災 31 年 若手からのメッセージ』

震災 31 年の今年も各局は様々なニュース企画に取り組みました。その中から若手たちが制作した選りすぐりの特集企画を一挙上映。一人一人が震災 31 年に向き合った若手制作者のトークもあわせて上映します。

シンポジウム『南海トラフ巨大地震 守りたい、だから伝える』

14:00 ~ 16:30

挨拶：河田 恵昭（人と防災未来センター センター長）

第 1 部 メディア・住民・町で目指す“串本モデル”

去年 11 月の串本町の避難訓練は各局がニュース番組で放送、さらに 12 月にはメディア、住民、町が一堂に会して、様々なアイデアを出し合うワークショップも開催しました。そこから地元の高校が地域と連携して避難訓練を実施する動きも始まっています。

アナウンサーたちの取り組み「関西アナウンス勉強会」では町の防災行政無線で流す新しい避難の呼びかけを検討、避難訓練で実際に使用し、避難の後押しになるのか検証、放送の枠を越えたチャレンジを行いました。1 年間の取り組みを紹介しながら、メディアと住民、町がともに「串本モデル」の実現を目指します。



避難訓練参加者に取材するアナウンサー

第 2 部 みんなで語ろう“あきらめない避難”

“避難をあきらめる人”の存在は地方の高齢化、過疎化が進む中で、串本町に限らない共通の課題です。津波の高さが 34.4 メートルと全国最大と想定されている高知県黒潮町の基本理念が「避難放棄者」を出さないこと。“あきらめない避難”のために町と住民が一体となった様々な施策を展開しています。黒潮町をはじめ南海トラフ巨大地震に向き合い、同じ悩みを抱える自治体の住民、防災担当者に参加いただき“避難をあきらめさせない”ために何が出来るのか、ともに考えます。

大津波警報 大津波警報
南海トラフ地震のおそれあり
今すぐ避難
巨大な津波が来ます
みんなで高台に避難

関西アナウンス勉強会が検討した
“新呼びかけ”

<司 会> 大山武人（NHK 大阪 アナウンサー） 垂水千佳（NHK 大阪 キャスター）
<アドバイザー> 近藤誠司（関西大学 社会安全学部教授）
<パネリスト>
高瀬耕造（NHK 大阪 アナウンサー） 藤岡勇貴（サンテレビ キャスター）
民放・NHK 各局の記者
南 貴久（人と防災未来センター 研究員）
和歌山県串本町 兵庫県南あわじ市 高知県黒潮町 防災担当者・住民代表
串本古座高校 C G S 部
<協 力> 関西アナウンス勉強会（関西 12 のテレビ局・ラジオ局のアナウンサーの勉強会）

“串本モデル”を目指して立ち上がった住民・町・研究者とメディア

